

かめやま教育通信

第53回



外国人児童・生徒に教育的な支援を行っています！

市内の小・中学校には、およそ100人の外国人児童・生徒が通っています。ポルトガル語、スペイン語、タガログ語など、さまざまな母語を持つ児童・生徒がいます。そこで、本市では、誰もが安心して学習し、仲間と触れ合い、楽しんで学校生活を過ごせるように、さまざまな取り組みを行っています。

外国人児童・生徒とは

主に、日本語指導が必要な**外国籍**と**日本国籍**で両親のいずれかが外国籍であるなどの児童・生徒のこと

取り組み① 通訳および支援員の配置

- 本市には、15人の通訳および支援員がいます。
- 亀山西小学校、亀山東小学校、亀山南小学校、川崎小学校、井田川小学校、亀山中学校に配置されています。
- 「ポルトガル語」、「スペイン語」、「タガログ語」、「英語」、「中国語」の通訳・翻訳をしています。

取り組み③ 進路ガイダンス

「学校へ行こう」

- 外国人児童・生徒が自分の将来に向けて進路選択ができるように、高校の先生から授業や学校生活についての話や、進学した先輩から体験談を聞くことができる場をつくっています。

取り組み② 日本語教室の設置

- 拠点校(亀山西小学校、亀山中学校)において、日本語教室を設置しています。
- 日本語教室では、それぞれの児童・生徒の日本語能力に応じて、日本語の初期的な学習や教科の学習等を行っています。



パズルやタブレットなどさまざまな教具を使って、日本語を楽しく学ぶことができるように工夫しています。



教科で使う難しい言葉は、理解しやすいように母国語に置き換えています。

取り組み④ 多文化共生の学校づくり

学校の実態に応じて工夫して取り組んでいます。例えば、

- 普段の学校生活の中で、子どもたちみんなでポルトガル語、スペイン語、タガログ語などであいさつをするなど、異文化に触れる機会をつくっています。
- 外国語指導助手(ALT)や外国にルーツを持つ友だちとの交流を通して、さまざまな文化や習慣、考え方の同じところや違うところを知り、相手への理解を深めています。

「多文化共生」とは

国籍や民族などの異なる人々が互いの文化的ちがいを認め合い、対等な関係を築こうとしながら、地域社会の構成員として共に生きていくこと
(総務省:多文化共生の推進に関する研究会報告書より)

日本語指導担当教員の思い



日本語教室に通う外国人児童・生徒の中には、日本語が分からなかったり、不慣れな日本の学校生活に不安を持ったりしている子もいます。少しでも安心でき、居心地を良くしたいので、子どもたちにとって母国の文化や母国語を大切に環境づくりを心掛けています。

将来、日本の高校に進学し、「日本で夢を叶えたい」とがんばっている外国人児童・生徒がたくさんいます。「夢を叶えるためには、何をどのように学習すればよいのか」などの相談をよく受けます。日本語指導担当教員としてできることをしていきたいと思っています。



外国人生徒として学び、 亀山中学校を卒業した久世美紀さんの思い

中学2年生の時にフィリピンから来日しました。最初はまったく日本語が分からず苦労しましたが、亀山中学校の日本語教室で個別に丁寧に日本語や各教科の勉強を教えてください、楽しく学習することができました。また、周りの子から英語で話し掛けてもらい、友だちができたこともうれしかったです。今は、大学に通いながら、市内の小学校で通訳の仕事をしています。夢は大学教授になることです！これからもがんばって勉強していきます！



問合先 教育委員会事務局学校教育課教育支援グループ(☎84-5076)